



報道関係者 各位

平成 25 年 3 月 14 日

【照会先】

大臣官房統計情報部

人口動態・保健社会統計課世帯統計室

縦断調査管理官 越路 幹男

室長補佐 相原 陽二(内線 7593)

(担当) 中高年者縦断統計係(内線 7594)

(代表電話) 03-5253-1111

(直通電話) 03-3595-2323

第7回「中高年者縦断調査(中高年者の生活に関する継続調査)」の結果

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「中高年者縦断調査(中高年者の生活に関する継続調査)」の第7回(平成 23 年)結果を取りまとめました。今回は縦断調査の特性を生かし、調査開始からの6年間に離職した者について、離職前後での健康状態、社会参加活動の変化や離職後の就業希望等について分析をしています。

「中高年者縦断調査」は、平成 17 年 10 月末に 50～59 歳であった全国の中高年者世代の男女に対して、家族の状況、健康の状況、就業の状況などを継続的に調査し、高齢者対策などの厚生労働行政施策のための基礎資料を得ることを目的としています。第7回調査では、平成 17 年度の第1回調査から継続して協力が得られた 23,672 人について集計しており、調査対象者の年齢は、56～65 歳となっています。

【調査結果のポイント】

1 離職後に仕事をしていない者の状況

離職後に仕事を希望している者のうち、仕事探し・開業準備を「何もしていない」者は、「介護・育児等(50.5%)」、「健康(43.8%)」を理由に離職した者の割合が高い。

(12 頁 図7)

2 健康状態の変化

健康状態が「調査開始以来この 6 年間、ずっとよい」者が継続して健康維持のために心がけている内容としては、「適度な運動をする(19.0%)」「食事の量に注意する(17.8%)」「バランスを考え多様な食品をとる(17.2%)」といったものが多い。

(4 頁 表2)

3 社会参加活動の変化

- ・ 社会参加活動(趣味・教養、スポーツ・健康、地域活動)を行っている者は、健康である割合が高い。

(5 頁 図3)

- ・ 社会参加活動のうち、趣味・教養、スポーツ・健康、地域活動は、活動を継続しやすく、離職前に「活動なし」だった者が活動を始める割合も高い。

(10 頁 図6)

詳細は、別添概況をご覧ください。